

第1回 淀江町誌編さん委員会（概要）

平成27年8月7日（金曜日）
13時～14時20分
米子市淀江支所1階第1会議室

出席者

委員：田口立身委員長、森田辰男職務代理者、田中秀明委員、小原貴樹委員、角昌之委員

淀江町誌編さん室：長谷川編集長、野坂編集員

米子市教育委員会文化課：岡課長、下高課長補佐、山内主幹

米子市淀江支所よどえまちづくり推進室：山根室長

開会

文化課長あいさつ

議題

1 役員選出

委員長 田口 立身氏

職務代理者 森田 辰男氏

2 編さん町誌の命名

「続 淀江町誌」に決定

（小原委員）表記としては、「続」と「淀江町誌」の間はスペースを空けるのだろうか。

また、「誌」もごんべん（言）の「誌」ということでよいか。

（田口委員長）「誌」については、「淀江町誌」の「誌」をそのまま使ったほうが良いと思う。また、「続」と「淀」の間を多少空けたほうが、続けてあるものより見やすいと思う。

（各委員）同意

（田口委員長）では、「続」と「淀江町誌」の間をすこし空け、「続 淀江町誌」と表記とする。

3 編さん基本計画

各項目毎で内容を説明

●趣旨・目的

（小原委員）文章として、「編さん事業が終了以降」のほうが良いのではないか。また、

「歴史」の「史」については、「町誌」との整合性はどうか。

(田中委員) 広い意味で「歴史」と捉えるか、単なる経過だけでないもので捉えていけば、問題ないと思う。ただ「淀江町誌」の「誌」となっているが、ここでいきなり「歴史」と突然出てくるのはどうか。

(野坂編集員) 「歩み」とかはどうか。

(角委員) そちらのほうが、幅が広がったような感じだ。

(田中委員) 共通認識ができていれば「歴史」でも、幅広い意味で捉えれば通らないということではない。また、「淀江町誌編さん事業」ではなく、「淀江町誌以降合併に…」ということではいいのではないか。

⇒「淀江町誌以降合併にいたるまでの淀江町の歩みを記録に…」に変更。

【変更後】

淀江町は、米子市との合併により平成17年3月31日新たに米子市として誕生した。このたび合併10周年を迎えたのを機に、昭和60年に発刊された淀江町誌以降合併にいたるまでの淀江町の歩みを記録にとどめ、これを後世に伝え活用を図るとともに、市民の郷土に対する関心と愛着をより深め、地域文化を育み魅力あるまちづくりに資することを目的としてこの編さん事業を行うものである。

●基本方針

(田口委員長) (4) でこの場合に、「協働意識」という言葉を使うだろうか。

(小原委員) 「協働」に「意識」という言葉を使うだろうか。

(文化課) 間に「の」を入れたらどうか。

⇒「協働の意識の醸成を図る」に変更

【変更後】

(4) 広報などをおして編さん経過等についての情報発信を行い、広く市民に周知を図るとともに、情報や資料の提供など市民に協力を呼びかけ、地域の活性化や協働の意識の醸成を図る。

●実施期間

提案・意見なし

●編さん事業の内容

(小原委員) 先ほどの内容を受け、「歴史」を省く「淀江町に関連する資料」としてはどうか。

(文化課) 「市民及び関係者への」の「へ」を削除する。

⇒「淀江町に関連する資料」「市民及び関係者の協力」に変更

(田中委員) 前回の町誌で集落の章というのがあり、今でも大変役に立っている。昭和60年以降とくに佐陀方面は大きく変貌しており、そのあたり集落ごとにまとめるのは困難かも知れないが、ある程度記録にとどめておくことができればいいなと感じる。

(小原委員) 「発行予定600部」にしてはどうか。

【変更後】

1 調査・執筆・刊行

調査は、淀江町はもとより、関係地域などにおける淀江町に関連する資料を対象に幅広く実施する。実施にあたり、市民及び関係者の協力も得るものとする。

体裁予定

A4版 縦 250頁程度

発行予定600部 予約配本

●スケジュール

提案・意見なし

●町誌編さん体制

(田中委員) 文化課との関係性はどうか。

(文化課) 町誌編さん室は機構上、文化課内に設置しているものである。

(小原委員) 文化課・まちづくり推進室との関係についてどこかに盛り込んでおく必要性はないだろうか。

(角委員) 行政機構上とは別箇に、支所と協力体制で行うということを書いたほうが良いのではないか。

(文化課) 4番にその他として、「文化課を主管課とし、よどえまちづくり推進室との連携により編さん事務を推進していく」を加筆する。

【変更後】

(3) 町誌編さん室

淀江支所内に設置し、町誌編さん事業に関する事務全般を行う。

(4) その他

文化課を主管課とし、よどえまちづくり推進室との連携により編さん事務を推進していく。

4 トピックス内容について

内容案の説明

(田中委員) 例えば、大型公共施設の場合、着手または完成を載せるのか、竣工やオープンなど、今後編さんするに当たってどこの部分に基本として取り上げるのかをしっかりと決めておかないといけないと思う。

5 目次案について

内容案の説明

(田中委員) 文化財や合併の経緯、文化センター等、どこか強調されるところを作らないと、一連の流れの中に入れてしまうと内容が目立たなくなってしまうのではないか。

(小原委員) 米子市史の現代の参考資料をみると、トピックスを中心に目次を作っている。こういう作り方も参考になる。今事務局が作っているのは基本構成で、この中にトピックスをどう組み込むのか、編集や構成をどのように考えるかが問題となると思う。

(長谷川編集長) どこをどうやって取り上げるかについてであるが、この委員会でどういった項目を取り上げたほうが良いのかを検討してほしい。この30年間にあった項目ならば取り上げれば良いと考えている。

(角委員) この項目を全部書くと、基本のページ数に収まらないのではないか。このうち、かなり端よる所は端よって、トピックス的なものを中心に扱ってあげばいいのではないかと考える。

(田中委員) この基本項目の中から、執筆部分を検討して編集の段階でカットする等していかねばならないのではないか。

(文化課) 統計資料は残していきたいという考えはある。ただ、冊子の中に記載するかどうかは別として、統計資料は断絶が一番怖いので、データをとっておきたいと考えている。

(田口委員長) 数字的・データのものは、きちんとしておいて、どのような編集の仕方をするのかは次の段階で考えてはどうだろうか。

(小原委員長) 発刊だけが目的ではなく、調査をして残していくことも基本方針の中でも謳っている。

(田中委員) DVD等で別に収録という方法でもよいと思う。

7 その他

(野坂編集員) これから編さん作業を進めていく上で、町誌編さんなど経験を持っている田中委員を中心に編さん室と相談をしていながら進めていきたい。また、目次案の内容や項目等も随時必要に応じて各委員に相談して決めていきたい。また、部会のような形のもので進めていきたいと考えている。

(田中委員・各委員) 同意

(小原委員) 編さんするにあたって、表記要綱のようなものがあるので市史等を参考にしながら作ってほしい。また、体裁の版組みの形、縦・横書き、1段・2段組等、中身の体裁案の部分も作って、次回のときに諮る等してほしい。

(長谷川編集長) 調査協力員はどのようにしたらよいか。期間から考えると協力員を置いて調査をしてもらうのは難しいと思うのだが。

(小原委員) 基本的には淀江支所にある資料は推進室に協力してもらって調査という格好になるのではないか。

(文化課) 要綱上の調査協力員は、大規模な調査等に特別に調査員を置いて調査を専門

的に関わってもらつつもりで作った。通常、記事にまつわるものは、事務局や担当課で協力しながら、という形をとればと考えている。

(小原委員) 内容的・期間的にも、ゆっくり調査というのは難しいのではと思う。

(田中委員) 「大山町誌」とかと現実には違ったスタイルになると思う。

(田中委員) これを機会に、前回の淀江町誌を作ったときの資料等、本来淀江町が所有している資料について探し、編さん室になるべく集める等確認作業をしてほしい。また、公民館にある資料は、館長に一回編さん室に持ってきて整理ができるようにしたほうがよいのでは、と伝えている。

(田口委員長) では、できるだけそういった資料は町誌編さん室に集めていくよう動いてほしい。協力員については、編さん委員、編さん室、事務局等と相談しながら、仕事を進めていく中で必要に応じ決めればよいと思う。

閉会